月　日　名前　　／50点

【中3】国語 文章テスト　説明文 1/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちの暮らしは、手間を減らす方向に進んできた。ボタン一つでごはんが炊け、画面を押せば品物が家に届く。手間が減った分だけ、時間にゆとりが生まれた。これは、たしかに大きな進歩である。

しかし、手間を省くとき、私たちは何を一緒に手放しているのだろうか。たとえば、手紙を考えてみよう。手紙を書くには、便せんを選び、言葉を考え、字を書き、切手をはって出す必要がある。メッセージを送るのに比べれば、ずいぶん手間がかかる。だが、受け取った人は、その手間の分だけ、相手が自分のために時間を使ってくれたことを感じ取る。手紙の価値の一部は、書かれた内容ではなく、かけられた手間そのものにあるのだ。

料理も同じである。できあがった料理を買えば、手間はかからない。けれども、自分で野菜を切り、火の強さを調節しながら作ると、食べ物がどのようにできていくのかが分かる。手間とは、物事の成り立ちに触れる時間でもある。手間を省けば、結果は手に入るが、その過程は見えなくなる。

もちろん、すべての手間を取り戻すべきだと言いたいのではない。省いてよい手間はたくさんある。大切なのは、手間を省くたびに、そこで何を手放したのかを意識することだ。何を手放したのかを知っていれば、本当に必要なときには、あえて手間をかけることを選べる。

便利さは、私たちに時間を与えてくれる。その時間を何に使うかを考えるとき、あえて手間をかけることも、選択肢の一つとして残しておきたい。手間の中には、効率だけではかれない何かが、たしかにふくまれているのである。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　筆者は、手紙の価値の一部はどこにあると述べていますか。本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問二（十点）　筆者は、料理の例をもとに、手間とはどういう時間だと述べていますか。「～時間」につながるように、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問三（十点）　「すべての手間を取り戻すべきだと言いたいのではない」とありますが、筆者が大切だと考えていることとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　できるだけ多くの手間を省き、時間のゆとりを増やすこと。
イ　手間を省くたびに、そこで何を手放したのかを意識すること。
ウ　手紙や料理など、昔ながらの方法だけを使うこと。
エ　便利な道具を使わずに生活すること。

問四（十点）　「手間を省けば、結果は手に入るが、その過程は見えなくなる」とありますが、どういうことですか。料理の例にふれて、六十字以内で説明しなさい。

問五（十点）　この文章の論の進め方として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　便利さの利点を認めたうえで、手紙と料理の例から手間の価値を示し、手間を選べるようにしておくことを提案している。
イ　便利な道具の危険をいくつも挙げ、使うのをやめるべきだと主張している。
ウ　手紙と料理のどちらがより手間がかかるかを比べ、結論を出している。
エ　昔と今の暮らしを数字で比べ、今の暮らしのほうがよいと述べている。

月　日　名前

／50点

合計　／100点

【中3】国語 文章テスト　物語文 2/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

進路希望調査の紙は、もう一週間も机の引き出しに入ったままだった。第一志望、第二志望。四角い空らんを見るたびに、ぼくは引き出しを閉めた。

兄は、ぼくと同じ中学から、地元でいちばんの進学校に進んだ。母は、ぼくも当然そこを受けるものだと思っている。先生も、成績を見て「十分ねらえる」と言った。ぼくだけが、その学校の名前を書く手を止めていた。

ぼくには、行ってみたい学校があった。電車で一時間かかる工業高校だ。夏休みに兄の自転車を直したとき、分解した部品が元どおりにはまっていく感じが、たまらなく楽しかった。あの学校には、機械を一から組み立てる授業があると聞いていた。

けれども、それを口にする勇気がなかった。「もったいない」と言われるに決まっている。そう思うと、自分の気持ちまで、もったいないもののように思えてきた。

提出の前の晩、ぼくは台所にいた兄に、ぽつりと聞いた。

「兄ちゃんは、なんであの高校にしたの。」

兄は、冷蔵庫を開けたまま少し考えた。「みんながそうしろって言ったからかな。」それから、ぼくの顔を見て付け足した。「別に後悔はしてないけど、自分で決めたって感じも、あんまりないんだよな。」

ぼくは黙って部屋にもどり、引き出しから紙を取り出した。第一志望の空らんに、工業高校の名前を書いた。書いてみると、思っていたよりも字はまっすぐだった。

明日、母には何と言おう。まだ言葉は決まっていない。けれども、この一行だけは、自分で決めたと胸を張って言える気がした。ぼくは紙を丁寧に折って、かばんにしまった。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　ぼくが工業高校に行きたいと思うきっかけになった出来事を、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問二（十点）　ぼくは、工業高校に行きたいと言えば、周りから何と言われると思っていましたか。本文中から六字で抜き出しなさい。

問三（十点）　兄の「自分で決めたって感じも、あんまりないんだよな」という言葉を聞いて、ぼくが気づいたこととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　兄のように、周りの言うとおりにするのがいちばん安全だということ。
イ　周りに言われて決めるのではなく、自分で決めることが大切だということ。
ウ　兄は進学校に行ったことを後悔していて、かわいそうだということ。
エ　兄に相談しても、何の役にも立たないということ。

問四（十点）　「思っていたよりも字はまっすぐだった」とありますが、ここからぼくのどんな気持ちが読み取れますか。五十字以内で説明しなさい。

問五（十点）　最後の段落から読み取れる、ぼくの気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　母に反対されるのがこわくて、紙を出すのをやめようと思っている。
イ　母にどう伝えるかはまだ決まっていないが、自分で決めた志望には自信を持っている。
ウ　母はきっと賛成してくれると信じて、安心している。
エ　工業高校に決めたことを、早くも後悔し始めている。